

和歌山大学協働教育センター クリエプロジェクト
＜2018年度ミッション成果報告書＞

プロジェクト名：高野七口活性化プロジェクト「ばあむ。」

ミッション名：高野山を学ぶ

ミッションメンバー：観光学部3年村田駿祐、観光学部3年浅井咲穂、観光学部3年安藤圭祐、観光学部3年泉妃名子、観光学部3年加納穂奈美

キーワード：1. 情報発信 2. 学ぶ 3. 冬場の訪問客数の増加 4. 親子参加型

1. 背景と目的

高野七口活性化プロジェクト「ばあむ。」(以下ばあむ)ではこれまで高野山ツアー、高野山のイベントボランティアなど高野山内を主な活動場所としてきた。しかし、より多くの人に高野山に来てもらうためには、高野山内の活動だけでは情報発信の手段としては不十分であり、高野山外での活動が必要であると考えた。また冬場の高野山は観光客数が少なくなることから、冬場の魅力も発信することで冬にも高野山を訪れてくれる人が増えるのではないかと考えた。

この活動でターゲットを考える際、和歌山市内の小学校で、高野山や空海について学ぶ機会が少ないという話を聞いたことから、ばあむが高野山について学ぶ機会をつくることで、小学生にも高野山について知ってもらえるのではないかと考えて、メインターゲットを小学生の低学年に設定した。小学生の低学年であれば保護者同伴で参加してくれる人が増え、親世代にも情報発信できると考えた。

このミッションでは高野山について情報発信をしながら、クイズを出題し、より多くの人に全問正解してもらうことと、高野山に知ってもらえることを目標とした。

2. 活動内容

2-1 事前準備

本ミッションは多くの小学生が集まるイベントに参加することが効率よく情報発信ができると考え、先生のご協力もあり、和歌山市内で開催されている「おもしろ環境まつり」への参加を決定した。

場所がきまり、次に情報を伝える手段を考え、紙芝居形式で発信することで小学生が飽きることなく学ぶことができるのではないかと考えた。小学生に楽しく高野山について知ってもらうために、ばあむメンバーで高野山について調査し、クイズを紙芝居形式で作成した。小学生向けに分かりやすい説明と内容を心がけ、興味を持ってもらえるように写真やイラストを多く使用することで飽きないように工夫した。



図1. 実際に使用した紙芝居の一部

2-2 おもしろ環境まつり当日

JR 和歌山駅近くの美園商店街で行われた「おもしろ環境まつり」に出店し、主に小学生とその保護者を対象にクイズ大会を行った。ブースの前の人通りが少なかったことから、積極的に呼び込みを行った。当日は小学生とその親子など 30 人に参加していただき、来場者には高野山のキャラクターである「こうやくん」グッズの景品をプレゼントした。また当初予定していた回数より多くクイズ大会を実施することで、参加しやすい環境を整えた。他の出店者やゆるキャラとの交流もあり、楽しい雰囲気が高野山クイズ大会を行うことができた。



図2.おもしろ環境祭り当日の様子

2-3 成果・結果

来場者にはアンケートの回答を募り、回答者 30 人の結果を集計した。それらの統計データについて述べていく。結果としては、高野山について詳しくなった人が 9 割を超え(A)、小学生の参加者は半数を上回った(B)。ターゲットとしている小学校低学年及びその保護者へ、高野山について学ぶ機会の提供を行うことができた。どの季節に高野山を訪れたいという質問には、高野山の紅葉シーズンとされる秋よりも、閑散期の冬に最もポイントが高くなる結果となった(C)。本活動により高野山に行きたくなくなったと答えた人は 9 割を超え (D)、この活動を通じた高野山の魅力発信が充分に行えたことが言える。

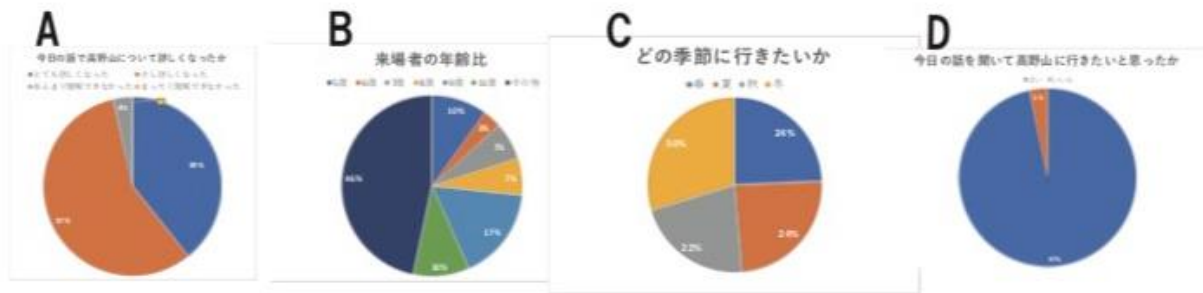


図3. アンケート結果

3. 活動の成果や学んだこと

ばあむの活動はこれまで大学内・高野山内に限られていたが、環境まつりの出店を通じて外部の方に高野山の魅力発信を行うことができた。参加者の小学生の中には実際に高野山に訪れたことの無い子もいたが、クイズ大会によって興味を持つきっかけをつくることができたと考える。またアンケート結果より、高野山に興味を持つ人が増加し、また訪れたい季節が閑散期である冬にポイントが高いという結果が得られた。これらにより、高野山の魅力発信と、その後実際に行ってもらうきっかけづくりという本ミッションの目的を達成できたと考える。ばあむメンバーに関しても、クイズ作成において高野山について学び、分かりやすく伝えることで高野山への理解を深めることができた。

一方反省点は紙芝居が20分間あり、小学生の集中力を考慮すると少し長かったということである。ターゲットに合わせた内容を作成することに加え、時間設定についても工夫する必要があると感じた。

4. 今後の展開

今回のような外部の方に高野山について学ぶ機会を作ることとして、来年度は和歌山大学オープンキャンパスで高校生を対象に高野山の情報発信を行う予定である。高校生への高野山魅力発信を通じて、高野山などの和歌山の観光地について魅力発信を行うだけでなく観光学部やクリエイティブ・ばあむなどの学生活動にも興味を持ってもらえるのではないかと考える。

また若者が高野山に訪れるための機会を提供するために、大学生向けのツアーを企画することも予定している。さらに、ばあむ以外の団体とも連携しイベントを企画・参加することで活動の幅を広げていきたいと考えている。情報発信のツールとして、SNSを使用した魅力発信も効果的に利用したい。自分たちの高野山でのイベントボランティアなどの活動の様子を知ってもらうことで、若年層がより身近に高野山について感じるができるようになる。と考える。

5. まとめ

おもしろ環境まつりの参加を通じて、大学や高野山内だけでなく外部への情報発信の大切さを学ぶことができた。これまでのばあむの活動では、主に和歌山大学生を対象に高野山ツアーを開催し、若者が高野山に訪れるにはどうすればよいかを考えてきた。もちろん若者の観光客の誘致もばあむの活動目標の一つだが、今後は環境まつりのような外部のイベントにもより積極的に参加することで活動の幅を広げていきたい。それに伴いイベントなどで学生以外の多くの人とも関わりつながりを作り、自分たちの視

野も広げていきたいと思う。また SNS などを利用し定期的に情報発信していきたいと考える。情報発信を行うためにはメンバーが高野山についての知識を身につけ、語れるようになることが不可欠である。ばあむ内の学習会や実地学習を通じてより高野山についての理解を深めていきたい。